

外部機関報告①：東南アジア地域研究情報資源の共有について

京都大学東南アジア研究所図書室
大野美紀子

- I 東南アジア研究所図書室の位置づけと収集対象資料
- II 東南アジア地域研究情報資源に係る諸課題
- III 結論に代えて；機関連携の将来像

【I 東南アジア研究所図書室の位置づけと収集対象資料】

1. 図書室の位置づけ

東南アジア研究所内の史・資料ハブの構造

旧資料部→2004年、地域研究情報ネットワーク部へ改組

うち、図書室・地図室が史・資料の収集・閲覧提供

情報処理室がウェブアーカイビング、資料DB開発・サポート

編集室が和英『東南アジア研究』出版、出版物のリポジトリ登録・納本

地域研究情報ネットワーク部が分担して地域研究情報資源を収集・利用提供する

2. 図書室の収集対象資料

収集対象となる史・資料とは？－出版社等で流通する（いわゆる）図書のほかに、非流通（いわゆる）灰色文献が含まれる。

蔵書の特徴

- 1. 東南アジア地域諸言語資料（流通・非流通とも）
- 2. マイクロ資料の継続購入・所蔵量の多さ
- 3. 特別コレクション

チャラット（タイ）、フォロンダ（フィリピン）、オカンポ（フィリピン）、インドネシア・イスラーム の4コレクションが公開

バンコク寺院旧蔵チューノム経典－整理中のため未公開

そのほか、メディア媒体資料－整理中のため未公開

【Ⅱ 東南アジア地域研究情報資源に係る諸課題】

1. CSEAS 自体が抱える課題として

コンテンツはあるが、保存・蓄積・発信・活用の長期戦略はない

2. 東南アジア地域側が抱える課題として

情報発信の脆弱性

1 国 1 国家図書館による全国書誌が未整備、かつ NII 型学術研究機関連携ネットワークが不在のため、資料情報共有ができない。

Material へのアクセス保証が困難

史・資料の長期保存への取り組み、代替資料提供が不十分

とくに顕著な現象として、急速なデジタル化により、original が廃棄

資料情報・デジタル化済代替資料の保存が不十分 i.e. ストレージ・サーバーがない

3. 課題の克服案として

国内外機関が連携して、リソースとしての情報・material を共有する取り組みが必要

【Ⅲ 結論に代えて；機関連携の将来像】

リソースシェアリング制度構築について

大規模なシステム設計は、イニシャルコスト・メンテナンスコストがかさみ、長期継続が難しい→コンソーシアム型 i.e. レファ協

Material の自館所蔵に拘泥しない、但しアクセスを担保するため、情報共有を進める

例) 東南アジア逐次刊行物データベースの位置づけ＝協働のタネまき

共通の format・simple な仕様・インフラ不要の DB を各地に移植する

DB 構築作業の場を介して連携・情報共有

各地の館同士で連携し、中心館不在